

新聞を学ぼう 記事を書く

記者は取材が終わると、どの要素が大切かはニュースによって異なります。記事によって、すべての要素がそろっていない場合もありです。

「逆三角形」と呼ばれる文体も新聞記事の特徴です。

記事には、いつ(when)、どこ(where)、

だれが(who)、何を(what)、なぜ(why)、どのように(how)という「5W1H」と呼ばれる六つの要素が含まれます。

先輩記者のアドバイスを受け記事を書く新人記者(左)



整理記者が後ろから記事を削ることができ、重要な部分を落とさずにすみずみまで記事はキャップ、デスク

といったベテラン記者が目を通します。伝えるべき要素が欠けていたり、ニュースのポイントをつかみ切れていない文章だったりすると、書き直しや補足取材を命じられます。

取材内容、簡潔にまとめる

す。一般的な文章は結論を最後に出すケースもありますが、新聞記事では先に結論を書き、その後重要な順から説明を加えます。

これは、読む人にニュースのポイントを速やかに伝えるためです。また、紙面に記事が入り切らなくなると、割り付けを担当する

入社して半年余りの新人記者たちも、締め切り時間をにらみ悪戦苦闘しながら、記事を書く感覚と技術を磨いています。